

NEWS LETTER

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

vol.33

岡村の最近の注目ニュース ビジネス予備校近況リポート B-EAT会活動報告 What's up?

2024年05月

2024/05

いつ始めても
遅すぎることはない。

「考える経営には
恩恵がある。」



EATビジネス予備校の研修で、過去8年間ほぼ毎月福岡の地に立ってきた。

いつも飛行機を降りた途端に、空港や町が活気であふれ人の表情が生き生きしているのを感じる。

先日タクシーに乗ったら、昨年の値上げ効果で、年収が5－6百万円まで急増したと嬉しそう。日本の人口は2005年頃から減少に転じたが、福岡市の人口減少開始時期は2035年から2040年まで先延ばしされている。考える経営には恩恵がある。

先日若手の生徒に、「バブル時代に日本ってどんな様子だったのか？」と質問された。振り返れば、仕事量が人口の伸びを上回って増え続けるので、いつも忙しかった。給与はうなぎ上り。若くしてたくさんの仕事を任され（やらされ）、失敗しても“次回はしっかりやれよ！”とチャンスを貰えた。自己肯定感を持ちやすかった。

活気にあふれた環境は気持ちを前向きにさせる良薬だ。一方で思考停止の麻薬にもなる。

TSMCの熊本進出により、アルバイトの時給3000円がセンセーショナルに報道されている。熊本における電子部品等製造業の最低賃金940円を考えると、日本人目線では“破格”的の厚遇だろう。でも、EATの皆さんには、給与を支払う側の感覚を、ぜひ想像して欲しい。過去30年の名目賃金の変化を見ると米英の約2.7倍上昇に対し、日本は1.1倍だ。3000円をざっくり2.5で割って1200円ぐらいの感覚で支払っていると思えば分かり易い。世界展開しているグローバル企業の定めた日本人の労働に対するプライシングは、目線を高めれば違って見えてくるはずだ。

私が待遇の価値を考慮することにこだわるのには理由がある。

外資に移って待遇が少しあがった時にはとてもワクワクした。長期デフレの日本で昇給から縁遠かったので、素直に嬉しく、自分が高く認められた気がした。でも、数年して社長になると、世界他地域に比べて日本は拠点成果の割に待遇が低いことに気がついた。それからは、日本の社員のために、実績に見合った待遇を獲得する戦いが始まった。私には日本流“倫理観”が染みついていたから、“金がもっと欲しい！”とは正直思わなかった。ただ、物言わぬ日本人が黙々と生み出す利益が他地域に流れる様がショックだった。黙って働くだけの存在になるのが嫌だった。見合った対価を適切に獲得できるようになった時に、初めて「世界の対等な一員になった誇り」を手に入れた。

あなたの給与は、働きに見合っているのか？過大か、それとも過小か？

仕事ができる人財でも、自身の待遇に関わると急に感情論に陥ってしまう。久しぶりに物の値段が上がり始めた今、“自身のプライシング”にこそ敏感になってほしい。いくらの利益創出に貢献し、いくら受け取るべきか？自身の報酬金額の適否を論理的に考える姿勢や目線を持って、会社主導のジョブ型雇用や実力主義の人事制度改革を形倒れに終わらせず、成果に紐付ける意識が自ずと高まってくる。海外企業の論理や外国籍人財の思いを深く理解する助けにもなる。時にはしっかり稼いだ金を社会貢献に使えば、生きる手ごたえ、すがすがしさも味わえるはずだ。

本日寄稿くださった長崎社長からは、“守るべきものを守り、変えるべきを変える”経営者の覚悟と環境適合の姿勢を学ばせて頂いている。名古屋の企業が連携して外国人留学生を応援する仕組みも、同氏の Cool Head Warm Heart から生まれたもので感嘆する。

注) この隔月ニュースの内容をさらに充実させ、発信していきたいです。メールアドレス等の変更は総務企画までお知らせくださいね！

(EAT代表 岡村 進)

「あついおもい」

ナガサキ工業株式会社
代表取締役
一般社団法人グローバル愛知
代表理事

長崎 洋二 氏



ナガサキ工業は1935年に金物商として創業し、戦後からは電力会社向けの高圧送電線用架線金具の製造を主な事業としてきました。発電所から変電所へ電気を届けるため、送電鉄塔に取り付けられる特殊な金具です。私が入社して33年、倒産の危機、新規事業立ち上げ、産業連携などさまざまな経験をしました。その原動力は常に「あついおもい」だつたように思います。

1、倒産の危機

「なにがなんでも生き残る、

2、中小企業者としての自負 （下請け気質を打ち砕け）

高度成長期には日本全国に送電網が張り巡られ、架線金具の需要も拡大していくようですが、しかしある程度普及してしまうと金具の二一ズは頭打ちになります。

「なにがなんでも生き残る、」
「世の中の商品やサービスにはすべて商品寿命があり、同じことだけをやり続けていればいつかニーズはなくなる」ということに気づかされました。それが「中小企業の生き残る術は多角化」という考え方になり、やがて、フォークリフトなどの産業車両用部品や自動車用センサー、物流機器、ソーラー・パネル用架台などを手がけるようになります。

3、産業連携事業 （100年に一度のチャンス、）

リーマンショックの時、多くの企業が100年に一度といわれる不況に苦しんでいました。当時まだ注目されたかった「環境」に焦点をあて、中小企業が強みを持ちより産業連携スキームをつくりソーラー・パネル付きフェンスやLED、ミスト装置などの商品開発をしました。この取り組みは当時注目を集め、愛知県環境賞を受賞しました。この産業連携をきっかけに太陽光発電事業を立ち上げ、現在はグレープ会社で太陽光発電所の設計・施工・保守管理を行っています。

4、少子高齢化の日本 （中小企業と留学生の課題解決）

日本では、2030年までに生産労働人口が640万人も不足するといわれています。中小企業にとって今後ますます人材不足が加速するでしょう。一方で、漫画やアニメなど日本のことが大好きで、日本での就職を希望する留学生の半数以上が、さまざまな要因で夢かなわず帰国せざるを得ないという現実があります。一方で、漫畫やアニメなど日本のことが大好きで、日本での就職を希望する留学生の半数以上が、さまざまな要因で夢かなわず帰国せざるを得ないという現実があります。一般社団法人グローバル愛知を仲間の経営者と共に立て上げ、「中小企業の人材不足の解消」と「留学生の就職率の向上と定着」をミッションとして活動しています。

私が入社し数年が経った1990年代半ば、売上の大半を電力事業に依存していた当社は倒産の危機を迎えることになります。バブル経済がはじけ日本全体が不況に苦しむ中、会社存続をかけ必死で新規客先を探しなんとか倒産の危機を免れたわけです。

100年に一度のチャンス、リーマンショックの時、多くの企業が100年に一度といわれる不況に苦しんでいました。当時まだ注目されたかった「環境」に焦点をあて、中小企業が強みを持ちより産業連携スキームをつくりソーラー・パネル付きフェンスやLED、ミスト装置などの商品開発をしました。この取り組みは当時注目を集め、愛知県環境賞を受賞しました。この産業連携をきっかけに太陽光発電事業を立ち上げ、現在はグレープ会社で太陽光発電所の設計・施工・保守管理を行っています。

留学生たちが、大好きな日本で就職し、定着し、活躍して消費もする。そんな社会を目指すべきだと思っています。納税し、日本のメンバーとして消費もする。そんな社会を

B-EAT

ビジネス予備校の
OB/OGによる地域を超えた繋がり

本年度の各クラス代表幹事による幹事就任および所信表明



B-EAT 東京 代表幹事

弓削 正樹 さん（写真左）

EAT ビジネス予備校 東京クラス9期生
※（写真右）同期で幹事の一人である岡本さん



B-EAT 福岡 代表幹事

小石原 隆史 さん

EAT ビジネス予備校 福岡クラス7期生

皆様初めまして。福岡クラスの代表幹事を拝命致しました小石原と申します。福岡7期では、16名の仲間と1年間学びを深めて参りました。EATで身に着けた「深く考え抜く」という視点は、私たちが混沌とした世界の中で、主体的に未来を創造する為の唯一の方法だと感じております。これからは、B-EATを通じて卒業された先輩方や講師の方々と協力しながら日本の未来を創造できればと思っております。引き続きご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ致します。

EAT 株式会社人財アジア

〒100-0005 東京都 千代田区丸の内1-8-3 丸の内トラストタワー本館 20階
[TEL] 03-6300-6460 [Mail] info@eat-star.asia

特別寄稿およびWhat's up? に掲載して下さる方を募集しています。ご希望の方は事務局までお問い合わせのほど、お願ひ致します。